



# シンフォニー・ホール一周年記念コンサート

## 小林美恵 Vn. 有森博 Pf. デュオ・リサイタル

2013年12月22日(日) 17:00 開演 (16:30 開場)

全席自由 要予約 4,000円 (全60席)

シンフォニー・ホール (シンフォニー・ビル2階)  
東京都江東区深川2-4-8 (地下鉄東西線・大江戸線門前仲町駅徒歩三分)

小林美恵 (ヴァイオリン)

1983年第52回日本音楽コンクール第2位。'88年シュポア国際ヴァイオリン・コンクール第2位。東京芸大で安宅賞を受賞。'90年ロン=ティボー国際コンクールヴァイオリン部門で日本人として初めて優勝。昭和音楽大学教授。

有森博 (ピアノ)

1992年東京芸術大学大学院修了。1990年第12回ショパン国際コンクールが最優秀演奏賞。1992年第5回シドニー国際ピアノコンクール第4位。1994年第10回チャイコフスキー国際コンクールピアノ部門入賞。東京芸術大学准教授、桜美林大学特任教授。

お申し込み・お問い合わせ

シンフォニー・サロン 080-6568-1830 symphonysalon@gmail.com

<http://www.symphonysalon.com/>

ベートーヴェン ヴァイオリン・ソナタ第7番

ヤナーチェク ヴァイオリン・ソナタ

ベートーヴェン ヴァイオリン・ソナタ第9番「クロイツェル」



Mie Kobayashi

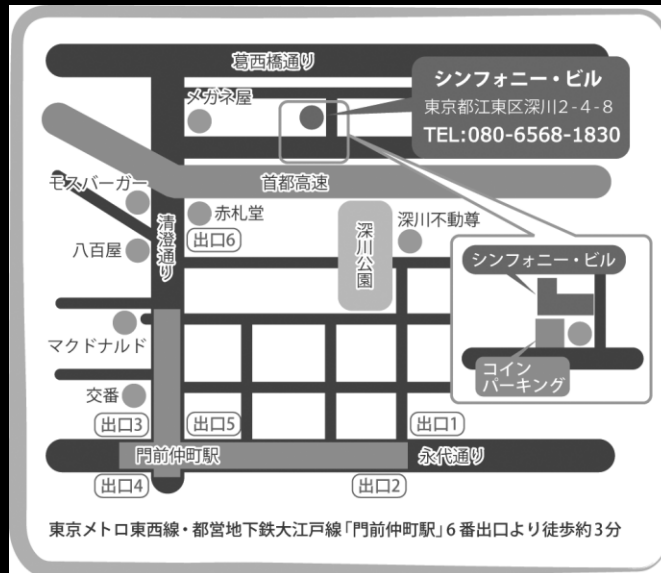
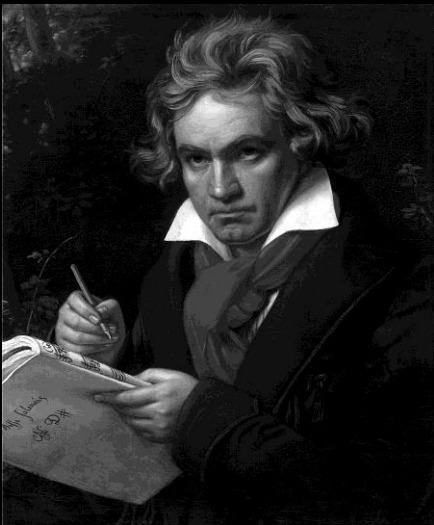
Hiroshi Arimori



## 日本を代表する実力派の二人が火花をちらすクロイツェル・ソナタ

クロイツェル・ソナタが生まれるまで、ヴァイオリン・ソナタは良家の子女が自宅やサロンで合奏を楽しむためのメディアだった。しかし、楽聖ベートーヴェンはクロイツェル・ソナタ一曲によってヴァイオリン・ソナタの概念を一変させてしまった。ただ美しいだけの世界はもはやここにはない。三つの性格の異なる楽章により、人間の喜怒哀楽をはじめ、絶望、諦観、瞑想、至福・・・までがここには表現されている。ヴァイオリンとピアノが絶妙な呼吸で絡み合い、技術的にも困難を極める。ヴァイオリン・ソナタの金字塔とされる所以である。

クロイツェル・ソナタを生演奏で聴く、というのはそれだけですごい体験であるが、小林美恵と有森博という二人の名人が競演するのをサロンで間近に体験することで何が生まれるか。ここはぜひ体験していただくしかない。音楽が乗り移ったような集中力でヴァイオリンを奏でる小林美恵。ロシア音楽の演奏で名高いが実はアンサンブルが抜群にすばらしいピアニストの有森博。油の乗った二人の奏者の競演により新たな「クロイツェル・ソナタ像」が見えてくるに違いない。当日は、クロイツェル以外に、ベートーヴェンがクロイツェル前に作った名曲であるソナタ第七番ハ短調と、狂気の一步手前ともいえる痛切な表現で心を揺さぶるチェコのヤナーチェクによるヴァイオリン・ソナタも演奏される。盛りだくさんな、しかし内容の濃い充実したプログラムである。



### シンフォニービルへの行き方

地下鉄（大江戸線・東西線）門前仲町駅6番出口を出てスーパー赤札堂を背に右手に進む。高速をくぐってすぐのメガネ屋手前を右折。一分ほど歩いて左手の青空駐車場「大栄パーク」を過ぎてすぐ先（最初の横断歩道の所、反対側は飲料水の自動販売機）を左折して左手。ホールはビル右手の階段を二階に上ってスグ。

### 小林美恵 プロフィール Mie Kobayashi, Violin

東京藝術大学附属高校を経て、同大学を首席で卒業。在学中に安宅賞、福島賞を受賞。1983年第52回日本音楽コンクール第2位。1984年海外派遣コンクール河合賞受賞。1988年にはシュポア国際ヴァイオリン・コンクール第2位、あわせてソナタ賞を受賞。

1990年、ロン＝ティボー国際コンクールヴァイオリン部門で日本人として初めて優勝。以来、国内外で本格的な活動を開始する。

これまでに、NHK交響楽団、東京都交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、読売日本交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、アンサンブル金沢等の国内の主要オーケストラ、ハンガリー国立交響楽団、ブラハ交響楽団のソリストとして、充実した演奏を高く評価される。また、静岡のAOI・レジデンス・クワルテットのメンバーをはじめ、数多くの共演者と室内楽の分野においても活動を広げ、軽井沢国際音楽祭に毎年出演するなど音楽祭にも積極的に参加している。CDは、「プレイズ・クライスラー」、パスカル・ロジェとのデュオ「フォーレ」「ラヴェル&エネスコ ヴァイオリン・ソナタ集」、ツィゴイネルワイゼンなどを収録した「ヴァイオリン名曲集」など多数リリース。

2010年、デビュー20周年をむかえ、紀尾井ホールで記念リサイタルを好演、同年ロン＝ティボー国際コンクールのヴァイオリン部門の審査員として招かれた。2012年には、パキスタンで行われたパキスタン国交樹立60年の記念演奏会に出演。そのほか、フランス、イギリス、タイ、中国、韓国、ニュージーランド等でも公演を行い、洗練され、しかもダイナミックに奏でられる重厚な演奏は、多くの聴衆を魅了した。

今後も、日本を代表するヴァイオリニストとしてリサイタル、室内楽、オーケストラとの共演など全国各地で公演が予定されている。現在、昭和音楽大学教授。

### 有森博 プロフィール Hiroshi Arimori, Piano

1992年東京藝術大学大学院修了。その後モスクワにて研鑽を積み現在に至る。これまでに野上登志子、水本雄三、小林仁、ナターリヤ・スースロワの各氏に師事。1990年第12回ショパン国際ピアノコンクール最優秀演奏賞。1991年岡山県芸術顕彰を受賞。1992年第5回シドニー国際ピアノコンクール第4位。1994年第10回チャイコフスキー国際コンクールピアノ部門入賞。1996年から2000年にかけてラフマニノフのピアノ作品全曲演奏会を成し遂げ、2001年にはプロコフィエフのピアノソナタ全曲演奏会を成功させるなど、ロシア作品に積極的に取り組む活動を展開し、ロシア音楽のエキスパートとして高い評価を受ける。1995年、2001年に小澤征爾指揮新日本フィルと協演の他、日本フィル、東京シティフィル、読売日響、九響、関西フィル、山形響、仙台フィル、神奈川フィル、東フィル、ワルシャワフィル、ポーランド放送響などの内外の主要オーケストラ、著名指揮者との協演を重ねる。2004年には小澤征爾指揮サイトウキネンオーケストラのメンバーとしてヨーロッパ6カ国ツアー及び日本公演に参加。これまでに、2011年にフォンテックより発売された「チャイコフスキーにつつまれて」、「カバレフスキー3」を始め11枚のCDがリリースされ、多くが特選盤に推薦されている。2013年には新作CDがフォンテックよりリリースされる予定。現在、ロシア作品によるリサイタルシリーズを、東京文化会館（「ロシアの玉手箱」）、久世エスパホール（「ロシアピアノリズムの系譜」）にて行っている。東京藝術大学准教授。桜美林大学特任教授。大阪音楽大学特任教授。沖縄県立芸術大学非常勤講師。